



お江戸舟遊び瓦版 1076号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり

お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

江東区議会傍聴「マイナス地域防災対策」に注目

はじめに：

2024年度第4回定例会を傍聴した。

日程：11.28 本会議 12.3 区民環境

12.4 厚生委員会 12.5 建設委員会

12.9 文教委員会

12.11 交通対策推進・地下鉄8号線特別委

12.12 防災・まちづくり対策特別委員会

12.13 医療・介護・高齢者支援特別委員会

《委員会で注目された点、質疑等》

11.28 本会議

大久保区長：地下鉄8号線工事が始まった。子育て支援の拡充を図る。防災対策を推進していく。

4月に生活応援課を創設し、誰もが住み続ける江東区を推進する。新区庁舎WSが始まった。

区民から愛される新庁舎を目指したい。区民の誰もが安心安全な区政にしていきたい。

12.3 区民環境委員会

- 区民館増設、施設使用料値上げ延期、ふるさと納税の廃止、太陽光発電パネル設置義務化導入廃止などの陳情の議論が続いたがいずれも継続審議となった。

江東区災害廃棄物処理計画改訂素案

K：浸水時の仮置き場の設置や交通も不能になることの対応などの対策は？

@埋立地や近所の公園などを活用する。区立公園の明文化は適時対応する。

12.4 厚生委員会

- 化学物質、電磁波問題、障害者支援、ワクチン問題、特養ホーム、児童館、給食への有機食材導入問題、日常生活自立支援、保育士問題等の多数の陳情と、ヤングケアラー周知シンポジウム等々課題が多く、特に保育士、訪問介護士不足が大きな課題で、抜本的な検討対策が必要と指摘された。保育園の定員割れ問題、子育て支援団体への助成を求める陳情の議論が続いた。

12.5 建設委員会

- 仙台堀川公園整備に関し、環境に十分配慮した工事を進めて欲しいとの意見が。
- 越中島川護岸耐震補強工事陳情：船宿問題は都との協議が進み、工事着工の目途が立った。

12.9 文教委員会

- 放課後児童クラブ、小学校学区見直し、給食、領土教育、LGBT理解推進法問題など23本の陳情。
- 教育現場で子供の生命・身体、財産の被害に関する事案について調査委員会で改善に努めるべきだ。
- 園児の減少に伴う区内の保育園・幼稚園問題は十分な調査による検討が必要だ。

教育長：災害対策を始め、予測困難な時代を生き抜く教育を子供の時から進めて行きたい。

12.11 交通対策推進・地下鉄8号線延伸特別委員会

- 亀戸・新木場LRT構想、城東地域の交通弱者対策、都心と臨海部を結ぶBRT問題、東京メトロ株売却中止を求める陳情などが審議され、ほぼすべてが継続になった。

枝川駅周辺まちづくり方針案：地区の課題は地震や水害に強いまちづくりであり、江東区水害ハザマップ（大雨浸水・高潮）において、地区内の広範囲に広く浸水が想定されており、建築物の上



層階での避難スペース確保や、災害時協力協定等による一時避難施設等の確保、大規模水害による犠牲者ゼロを目指した「浸水対応型まちづくり」の推進が必要である。

12.12 防災・まちづくり対策特別委員会

江東区のすべての地下鉄に浸水安全対策を求める陳情、防災対策のさらなる充実を求める陳情、江東区総合防災訓練に「水害避難訓練」の追加を求める3陳情については継続審議となった。

都営亀戸・南砂団地建替計画：

N：水没地域対応として集会所・防災倉庫を高層階に設置するよう要請。

江東区災害廃棄物処理計画素案

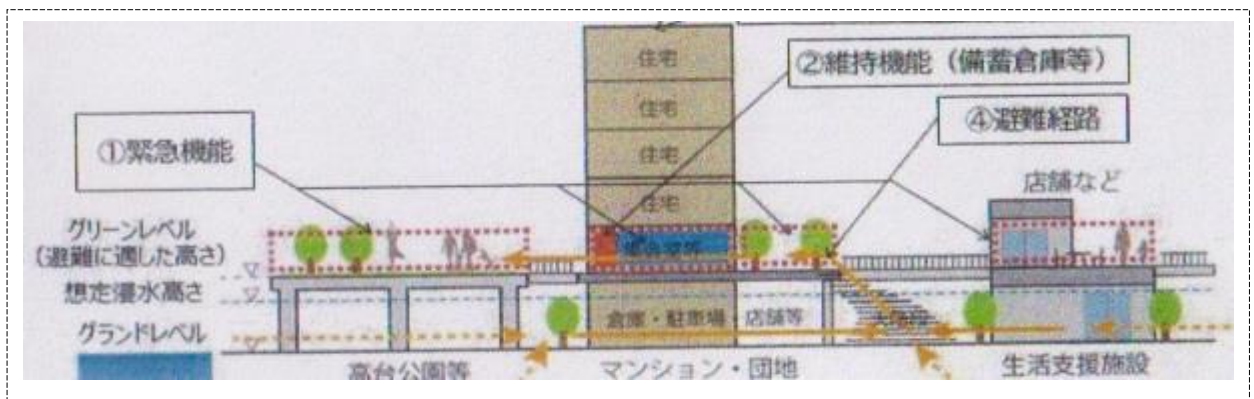
N：11月より能登半島の災害廃棄物の受入が始まった。@江東区は共助を期待している。

大島4丁目、亀戸2丁目のまちづくり：

N：浸水対応型まちづくりの対象だが、イメージが湧かない。高齢者福祉施設の追加が必要。

@ 下図のように既存の建築物の建て替えや更新を契機に浸水対応エリアを形成する。

亀戸2丁目団地一帯における浸水対応型拠点エリアのイメージ



12.13 医療・介護・高齢者支援特別委員会

- ・ 都有地に特養ホームと障害者施設整備促進、特別養護老人ホーム、障害者や高齢者の家族が専属ヘルパーを雇用できる制度、国民健康保険料値下げ等々の陳情はいずれも継続審議となった。

《検討課題》

① 地下鉄8号線の浸水安全対策、さらなる対策の充実を求める区議会陳情

江東区民の命を守るべき最大課題は「マイナス地域防災」で、国土交通省荒川下流河川事務所のフィクションドキュメンタリー『荒川氾濫』によると、北区で荒川が決壊し、地下鉄入口から地下鉄内にも浸水し、霞が関までに浸水が及び、ビジネスや国政も機能不全になると予測されている。江東区のマイナス地域では浸水してしまう地下鉄は危険この上ない！

参考：フィクションドキュメンタリー「荒川氾濫」令和3年3月改訂版（字幕なし） - YouTube

② 「江東5区マイナス地域」防災：電柱地中化や地下鉄は、温暖化が進み台風が大型化していることや、30年に70%の確率とも予測されている首都直下大震災による荒川破堤・氾濫は大変危険で、その対応を考えないのは区民の命を守るべき行政の不作為行為に相当する。

③ 江東区災害廃棄物処理計画素案：水害時は交通不能、運搬不能となり、根本的対策が必要。

④ 浸水対応型まちづくり：30年に70%の首都直下型地震や温暖化による台風・豪雨の大型化が進む中で、浸水対応型まちづくり推進の期待はあまりにも厳しい感じがする。三重県等で進んでいる水害避難支援システムの研究を中央大学有川研究室が進めており、マイナス地域の広がる江東区では一日も早い区民・町会・自治会・企業・区・社協等の連携での推進が不可欠だ！

所感：江東区政世論調査における区民の要望施策第一位は防災対策：浸水・津波だ。30年に70%の確立の首都直下型地震や、温暖化による台風・豪雨による荒川氾濫対策が今ほど必要な時はない。

今後は、区民の生命を最優先に、民主的なジェンダーバランスを重視し、誰ひとり取り残さない、安心安全な江東区・地域社会づくりを行政と区民の連携で進めて行きたい。（文責 中瀬）